

# プロジェクト報告 Project Reports

## チリ共和国 『チリ地震被災者支援』 企業物資支援

サポート:アシックス、大王製紙、  
カネカ、トヨタ織機  
2010年9月～12月

2010年2月27日に発生したマグネチュード8.8の地震は死者800人以上、身元が確認されたのは279人のみである。地震の大きさとしては、世界で5番目に大きな地震である。地震発生20分後に津波が到着したが、海軍のミスで警報が遅れ、死者の大半の500人は津波による犠牲者となったと見られる。



アシックスのウエアを受け取った被災地の中学生



チリ地震被災地へは日本企業から多くの物資が寄付された。ICAはジャパンプラットフォームの企業マッチング・システムを通じて、アシックス、大王製紙、カネカ、トヨタ織機からの寄付物資をチリで地震の被害が最も大きかったビオビオ州とマウレ州の被災者に配布した。

アシックスのスポーツウエア、大王製紙の衛生用品、カネカの毛布、トヨタ織機のローダーなど、合計20,978世帯へ配布することができた。アシックスのスポーツウエアは、マウレ州の合計62校の小中学校に配布することができた。ウエアを受け取った生徒たちは、「直接届けに来てくれたことに感動した」と、その場ですぐにウエアを着用し、喜びを表現した。

大王製紙から送られた子供用オムツ、トイレトペーパーなどの衛生用品は、タルカとコンセプション地区にある 障害者施設、高齢者介護施設、病院など23カ所の医療施設団体へ渡した。州政府の保健局から受けた州内の病院や介護施設のリストをもとに各施設に連絡を取り、物資の必要性と患者数などの情報を得て、配布調整を行った。

カネカの毛布は、アラウコの6つの集落500世帯に配布することができた。アラウコ地域は、住環境改善の遅延が目立った場所であり、カネカの毛布が最初の支援物資となった。真空パックで届いた毛布を、被災者たちは大事な贈り物として受け取り、「家で家族が揃ってからでない」と封を切らない」という被災者もいた。

トヨタ織機のローダーに関しては、今後のメンテナンスなども含め、現地で継続して復興作業を実施するCRATE(現地NGO団体)へ受け渡した。ローダーは、地震で崩壊した家屋の瓦礫撤去作業や土砂崩れ、灌漑施設の修復など、被災者の要請に応じて使用されている。メンテナンスは、現地トヨタディーラーが5年間無償で行う。

被災者は物資のクオリティーの高さに感激するとともに、形式的な贈呈と違い、日本の支援は直接物資を受け取ることができたと大変喜んでいった。復興活動へのモチベーションもあがったという。



アシックスのウエアを受け取った被災地障害施設



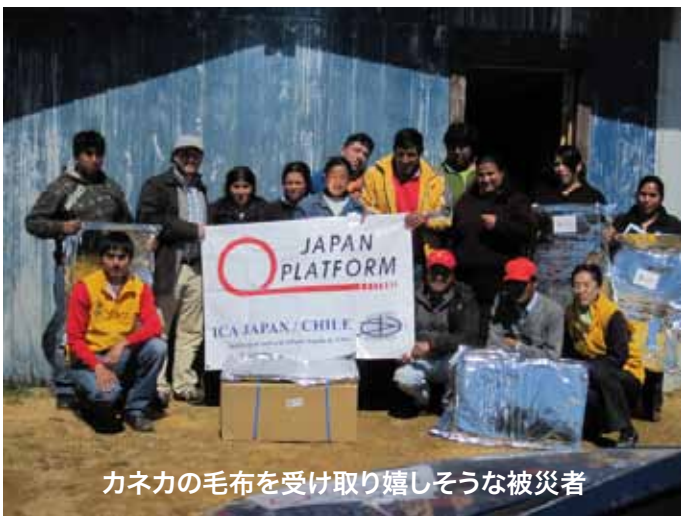
アシックスのウエアを受け取った被災地の中学生



大王製紙の衛生用品を受け取った被災地の障害児



大王製紙の衛生用品を受け取ったホスピス



カネカの毛布を受け取り嬉しそうな被災者



カネカの毛布を受け取り嬉しそうな被災者



トヨタ織機のローダーを受け取る被災者



トヨタ織機のローダーで瓦礫撤去作業の練習